

2023年8月20日

2024年度  
大学院経営管理研究科 経営管理専攻  
修士課程 入学試験  
(研究者養成コース 一般選考)

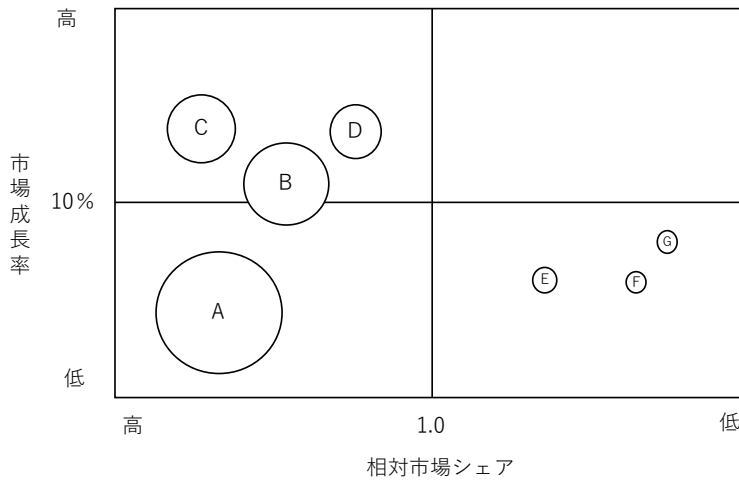
【専門論述試験問題】

**解答上の注意**

- ・ 以下の1～5の問題のうち1題を選択し、日本語で解答すること。なお、希望指導教員の専門分野に拘らず、どの1題を選んでもよい。
- ・ 1題が複数問で構成されている場合は、それを構成する全ての問題に解答しなければならない。ただし[会計]については3-Aもしくは3-Bのうちどちらかを選択し、それを構成する全ての問題に解答すること。
- ・ 解答用紙の問題番号選択欄では、選択した問題番号に○をすること。
- ・ 解答用紙は1枚とする。ただし、裏面も使用できる。
- ・ 解答は、横書きにすること。

**【経営】**

1. 下図は企業 X のある年度の事業ポートフォリオを、PPM（プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント）の成長シェア・マトリクスに従って示したものである。円 A～G は、企業 X の各事業（SBU）を示している。この図に基づいて、以下の全ての問いに答えなさい。



- (1) PPM および成長シェア・マトリクスの基本的な考え方について説明しなさい。
- (2) PPM および成長シェア・マトリクスに従うと、企業 X はどのような問題を抱えていると判断できるか。最も重要であると考えられる問題を 1 つ挙げ、理由と共に答えなさい。
- (3) 上記の問題を解決することに貢献する考え方としてどのようなものがあるか。該当する理論やフレームワーク（論文やその理論を主張した研究者名でも可）を 1 つ挙げ、その考え方に従うと企業 X は何をする必要があると示唆されるのか、説明しなさい。
- (4) PPM および成長シェア・マトリクスに対しては、これまで批判もされている。その主要なものを 1 つ挙げた上で、その問題点を解決することに貢献する理論やフレームワーク（論文やその理論を主張した研究者名でも可）を 1 つ挙げ、説明しなさい。

## [マーケティング]

2. 市場ニッチ戦略とダブルジョパディの法則 (Double Jeopardy law) について、以下の全ての問いに答えなさい。

- (1) 市場ニッチ戦略がどのような戦略であるかを説明したうえで、この戦略が有効に機能する理由を説明しなさい。
- (2) ダブルジョパディの法則とは、ある市場内における市場浸透率（一定期間内に少なくとも1回当該ブランドを購入した消費者の比率）と、そのブランドの購買頻度との間には正の相関があることである。具体的には、以下の表のような状況が想定される。

| 消費財カテゴリーX | 市場占有率 (%)     | 年間市場浸透率 (%) | 平均購買頻度 (回) |
|-----------|---------------|-------------|------------|
| ブランドA     | 32            | 40          | 4.2        |
| ブランドB     | 25            | 30          | 3.9        |
| ブランドC     | 10            | 15          | 3.2        |
| ブランドD     | 8             | 13          | 3.0        |
|           | カテゴリーXの平均購買頻度 |             | 3.2        |

ダブルジョパディの法則が成立する市場において、ブランドの売上を伸ばすために有効なマーケティング戦略 (4Ps) を説明しなさい。

ダブルジョパディの法則が成立する市場において、企業が市場ニッチ戦略を採用することは適切だろうか。適切かどうかを最初に記述したうえで、その理由を説明しなさい。

## [会計]

会計については、以下の3-Aもしくは3-Bのうちどちらかを選択し、それを構成する全ての問題に解答すること。

**3-A.** 金融商品会計に関する以下の全ての問いに答えなさい。

- (1) 商品売買に係る金銭債権債務は、原則として、当該商品の受渡しによりその発生を認識するが、金融資産または金融負債自体を対象とする取引（金融取引）には、そのような受渡基準が適用されるわけではない。金融取引は、どのようなタイミングでその発生を認識するのか、答えなさい。また、なぜ、そのようなタイミングで認識するのか、答えなさい。
- (2) 金融資産は、その属性や保有目的に応じて、会計処理が定められている。売買目的有価証券、満期保有目的の債券、その他有価証券はどのように会計処理されるのか、説明しなさい。また、なぜ、保有目的に応じて会計処理が異なるのか、詳述しなさい。
- (3) 全ての金融資産を公正価値で評価し、評価差額を損益計算書上で認識すべきとする説の妥当性を論じなさい。

**3-B.** 原価管理には、原価維持、原価改善、原価企画という3つの領域があると考えられている。原価管理に関する以下の全ての問いに答えなさい。

- (1) 原価維持、原価改善、原価企画の各原価管理領域の目的について、それぞれの違いが明確になるように、説明しなさい。
- (2) 3領域の中でも、現代では原価企画による原価管理の重要性が高いと言われているが、その背景としての経営環境の変化について説明しなさい。
- (3) 原価企画を特徴づける要素について説明しなさい。

## **[金融]**

4. 以下の全ての問いに答えなさい。

- (1) 投資家・企業間の情報の非対称性が、企業の資金調達または資本構成の意思決定に与える影響について、二つの考え方を説明しなさい。それぞれどのような情報の偏在が問題となるのか説明すること。
- (2) 株主価値の向上に必要とされるコーポレートガバナンスのメカニズムについて、コーポレートファイナンスの視点から説明しなさい。
- (3) ポートフォリオ理論における分離定理について図を用いて説明した上で、インデックス運用の合理性について説明しなさい。また、コーポレートガバナンスの観点から、インデックス運用の問題点について説明しなさい。

[共通基礎問題]

5. 以下の全ての問いに答えなさい。結論に至った計算等の過程も示しなさい。

(1)  $\mathbb{R}^2$  で定義された関数  $f(x, y) = x^2 + y^2$  が  $x^3 + y^3 = 1, x > 0, y > 0$  の条件下で取り得る最大値を求めなさい。

(2)  $E_m, E_n$  をそれぞれ  $m$  次単位行列、 $n$  次単位行列、 $A$  を  $m \times n$  行列、 $O$  を零行列とする。次で定義される行列  $X$  に対して、以下の問いに答えなさい。

$$X = \begin{pmatrix} E_m & A \\ O & E_n \end{pmatrix}.$$

- ①  $X$  の逆行列を  $E_m, E_n, A, O$  を用いてあらわしなさい。
- ②  $k$  を正の整数としたときに  $X^k$  を  $E_m, E_n, A, O$  を用いてあらわしなさい。

(3) 大きさ  $n$  の無作為標本を  $\{X_1, X_2, \dots, X_n\}$ , 母平均を  $\mu$ , 母分散を  $\sigma^2$  とする。二つの推定量

$$T_1(X_1, X_2, \dots, X_n) = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i$$
$$T_2(X_1, X_2, \dots, X_n) = \frac{1}{n+1} \left( X_1 + \sum_{i=1}^n X_i \right)$$

について以下の問いに答えなさい。

- ①  $T_1$  と  $T_2$  がいずれも不偏推定量となることを示しなさい。
- ②  $T_1$  と  $T_2$  の効率性を比較しなさい。